

私を変えてくれた剣道部

音羽中・2 小倉 千歩

格好よく一本を決める姿。

その姿が、きらきらと輝いて、私の目に飛び込んできました。中学校に入學してすぐに、部活動見学・体験入部がありました。少し興味のあつた剣道部へ行くと、先輩たちのきらきら輝く格好いい姿に目を奪われました。その姿に憧れて、入部を決めました。今思うと、こんなに強く何かに惹かれたことは初めてだったかもしれない。しかし、入部してみると、たくさんの困難が待ち構えていました。

竹刀を持ち、初めて相手に打ち込みをする練習をしたとき、

「竹刀が当たると痛いかも」

と心配になつてしまい、しかも相手が先輩だったこともあり、ちゅうちよしてしまいました。おかげで打ち込みは狙いを外れ、全然上手くできませんでした。悩みながら練習をしていると、一年生に指導してくれる先輩が、私の悩みに気づいて、優しく声をかけてくれました。

「みんな痛くないから、もっと思い切り打ってきていいよ。もし、防具のない所を打つてしまつても、後から謝れば大丈夫！」

先輩たちも、私と同じ道を通つてきて、思い切つて練習をしてきたからこそ、格好よい今の姿があるのだと気づかされました。その日から、思い切つて打ち込みをしようと思ひを変えられることができ、少し、憧れている先輩たちの姿に近い打ち込みができるようになっていきました。

一年生の九月には、私にとって初めての大会がありました。剣道部の唯一の同級生は、小学生の頃から剣道を習っていて、大会にも

出たことがあつたそうなので、本当の初めての大会になるのは部内で私だけです。会場はどんな雰囲気なのか、どんなふうに試合をするのか、先輩や顧問の先生から聞いていましたが、やっぱり当日は緊張しました。それでも頑張ろうと心で決めながら私の出番を待ちました。

いよいよ私の試合の順番が来て、開始線に立ちました。顔を上げると、目の前に見るからに強そうな人がいて、一気に周りの空気が重くなり、私に覆いかぶさつてきました。怖くて、怖くて、どうしたらいいのか分からなくなつたときには、もう負けてしまつていました。悔しくてたまりませんでした。あんなに先輩たちに教えてもらったのに、何もできなかったのです。でも、この悔しさが私を大きく変えてくれました。

大会後からは、とにかく試合で何かできるようになろうと決め、自分の得意技を見つけて、実践の中で決められるように練習したり、体のどの部分に力をつけたらよいのか考えて筋トレをしたりしました。そして、少しでも怖さに耐えられるように顧問の先生や先輩たちにアドバイスをもらいながら練習をしました。

あつという間に一年が過ぎ、私の悩みに気づき、いつでも優しく教えてくれた先輩が引退をする時期になつてしまいました。憧れの先輩たちがいなくなるのは当然悲しくて、引退してほしくない、もっと一緒に練習したいという気持ちでいっぱいでした。打ち込み練習で悩んでいたときに「思い切り打つてきていいよ。」と話してくれた先輩が、引退の日に私に手紙を書いてくれました。受け取った手紙を嬉しくて何度も読みました。手紙の中に、

「千歩はきつと上手になりたいに変わるよ。」

という言葉がありました。試合に出る度に、「怖い、怖い気持ちを何とかしたい、試合で何かできるようにしなきゃ」という思いばかりだった私に、この言葉が突き刺さりました。

「そうか、私は上手になりたいんだ！だから、練習も一生懸命頑張

っているんだ！」その後の私は、先輩の言葉通りに変わっていきました。

二年生になると、私たちの代とは違い、後輩がたくさん入部してきてくれました。先輩としての意識が芽生え、憧れの先輩たちのように一年生に指導したり、自分自身ももっと高みを目指して練習したりするようになりました。後輩ができたことがきっかけで、昨年度以上に、夢中で練習するようになっていたのに、私は怪我をしてしまいました。すり足の練習中、勢いよく転倒した拍子に左手を強くつけてしまいました。その日の練習はそのまま見学。せっかく頑張っていたのに、と悔しい気持ちでしたが、また明日から頑張ればいいやとも思っていました。ところが、痛みは治まらず、病院へ行くことになりました。

「骨挫傷」

骨を痛めてしまっているのだと病院の先生に説明され、出場予定だった試合に出られないことが決まりました。あんなに一生懸命頑張っていたのに悔しかったです。今までに味わったことがないくらい、とてもとても悔しい気持ちでした。同時に、先輩や部活の仲間、顧問の先生に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

「なんでこんな時に…」

という気持ちで、自分を責めてしまう私を、「次の東三河大会には出られるように頑張ろう」とみんなが励ましてくれました。剣道部に入ってよかった、みんなと一緒に練習ができてよかったと強く感じた瞬間です。手が使えないことは思った以上に不便でしたが、それでも、次の大会に向けてできることはあります。足の動きや、一年生のやる基礎練習と一緒に取り組んだり、先輩たちの実践練習を見て学んだり、自分の力になることを考えて諦めずに取り組みました。無事に完治し、ギプス固定が外れたとき、みんなが私以上に喜んでくれて、またしっかり頑張らなきゃと気持ちが引き締まりました。迎えた東三大会。アップからなぜか力が入りませんでした。いろ

いろな気持ちがぐるぐる回り、頭がふわふわしてしまいました。一試合目は得意技を出してみながら取り組みましたが、一本にはならず、負けてしまいました。それでも、先輩方の健闘で二試合目に進めることになりました。二試合目の相手は昨年度の優勝校でした。技があまり出せず、負けてしまいました。一瞬の出来事のように感じました。二試合とも思うように動けず、悔しくて涙が出ました。この試合で、先輩が引退しました。最後の部活なのに、先輩たちが笑顔でいることに驚きました。私と先輩との違いは何だろうと考えました。きっとこのまま、私が最後の大会を迎える日まで、部活の仲間と学年関係なく教え合い、励まし合い、一生懸命練習して、乗り越えていけば、分かるのだと思います。あの日見た、輝く先輩の姿に一步でも近づけるように、楽しく部活に励んでいきたいです。